全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた

授業や指導方法の工夫改善事例集

［目　次］

Ⅰ　はじめに　1

Ⅱ　授業の工夫改善事例

① 小学校国語　3
② 小学校算数　7
③ 中学校国語　１１
④ 中学校数学　１５

Ⅲ　指導方法の工夫改善事例

① 授業内容や家庭学習と関連付けた「学習タイム」の推進　１９
② 習熟の程度に応じた少人数授業等、個に応じた指導の充実　２０
③ 学習習慣の確立を図る予習・復習等の学び方の指導　２１
④ 言語活動等を支える学習規律や学び方の指導　２２
⑤ 小中学校の課題を共有する小中合同の教科部会　２３
⑥ 授業実践のポイントを継承する授業研究　２４

兵庫県教育委員会

は　じ　め　に

本県では、学力向上実践推進委員会を設置し、全国学力・学習状況調査の結果や新学習指導要領の趣旨を踏まえ、効果的な学習指導について検討を行うなど、児童生徒の一層の学力の定着を図る方策等を明らかにする取組を推進しています。

平成１９年度から４年間にわたる調査の結果から、本県児童生徒の学力の定着状況は、全国の公立学校と比較し、同程度であるものの、[活用する力]の育成や予習・復習などの学習習慣などに課題が見られました。

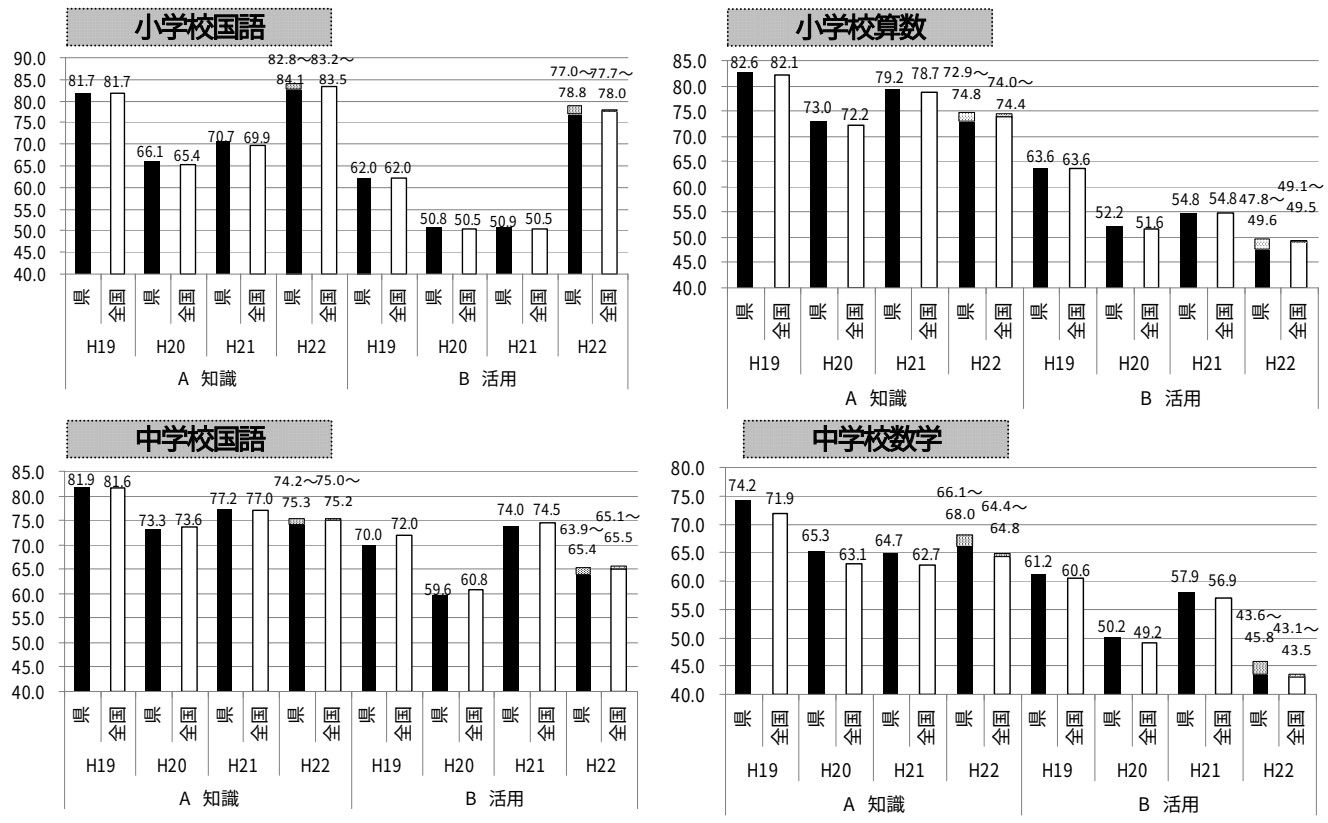
このため、週４回以上の漢字・計算等の反復学習を通して学習習慣の確立を図る「学習タイム」の推進や、活用する力を育成する国語力向上の実践研究及び教員研修、学力向上と小中学校の円滑な接続を図る「兵庫型教科担任制」の拡充、さらに、各教育事務所に設置した学力向上支援チームによる市町・学校の学力向上に向けた取組の検証改善の支援やスーパーティーチャーの派遣など、総合的な学力向上策を進めてきました。

本年度の全国学力・学習状況調査は中止となりましたが、授業や指導方法について検証改善を継続して進めることが重要です。そこで、県内小中学校の学力向上に向けた特色ある取組を集積し、「基礎的・基本的な知識・技能」「知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等」「主体的に学習に取り組む態度」をバランスよく育む観点から、効果的な取組事例をまとめました。

特に、授業事例については、新学習指導要領において重視される言語活動の充実等に着目し、授業者が意識すべき指導や評価のポイントをまとめ、国語、算数・数学だけでなく他教科等での活用も考慮しています。

各学校においては、こうした事例を参考とし、今後の教育活動の一層の充実が図られることを期待します。

◇ 全国学力・学習状況調査における平均正答率（%）の推移



※平成 22 年度は抽出調査であるため、平均正答率については、95%信頼区間（悉皆調査の場合の平均正答率が 95%の確率で収まる範囲）をグラフ中の網掛けの部分で示している。

全国学力・学習状況調査　H19～21：悉皆　H22：抽出　H23：中止(問題冊子等の提供)

県・市町・学校等における教育施策や教育指導の検証改善

◆継続的な課題

① B活用
資料や情報に基づいて意見や感想を記述すること(国)、判断や根拠の理由や問題解決の方法を説明すること(算・数)等の記述

② A知識
文の構成の理解や文章の推敲(国)、加法と乗法が混合した計算や証明の意義(算・数)等

③ 学習習慣
家で自分で計画を立てて予習・復習している児童生徒の割合が、やや低い

◆小中に継続した課題

④ 平成19年度小6と平成22年度中3の比較
表現の仕方に注意した話し方(国)、円の面積の公式の理解(算・数)など

新学習指導要領の全面実施　H23：小学校　H24：中学校

○知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等

○基礎的・基本的な知識・技能

○主体的に学習に取り組む態度

〈本県の取組〉

国語力向上モデル事業 (H21・22)
国語力育成を図るための指導方法の工夫改善の在り方や言語活動の充実等についての実践研究

「ことばの力」育成事業 (H23・24)
国語科で培った能力を基本に、各教科等において、発達段階に応じた言語活動を充実し、様々な文種を「読む力」「書く力」等の向上を図る実践研究

「学習タイム」の推進
基礎的・基本的な知識・技能の定着や学習習慣の確立を図るため、週4回以上の「学習タイム」を全県的に推進

「兵庫型教科担任制」の推進
学力向上や小中学校の円滑な接続を図るため、小学校高学年において「教科担任制」と「少人数学習集団の編成」を組み合せて実施

小・中連携推進専門員の配置
小中双方向からの連携促進の支援　等

ｽｰﾊﾟｰﾃｨｰﾁｬｰ派遣事業
教員の指導力向上のため、教員OB等の小中学校への派遣

学力向上支援チームの設置
学校・市町における取組の検証改善サイクルの確立を支援

授業の工夫改善事例

○思考力・判断力・表現力等の育成を図る取組

①意見や感想、理由や方法の説明等の言語活動の工夫

②自己評価、相互評価等による見通し、振り返りの指導の工夫

③日常生活と関連付け、知識・技能を活用する学習の工夫

指導方法の工夫改善事例

○基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図る取組

①授業内容や家庭学習と関連付けた「学習タイム」の推進
②習熟の程度に応じた少人数授業等、個に応じた指導の充実

○学習習慣の確立に向けた取組

③学習習慣の確立を図る予習・復習等の学び方の指導
④言語活動等を支える学習規律や学び方の指導

○指導方法の系統性を図る教員の連携

⑤小中学校の課題を共有する小中合同の教科部会
⑥授業実践のポイントを継承する授業研究

〈 授業の工夫改善例：小学校国語・第３学年 〉　　教材：「イルカのねむり方」「ありの行列」

分かりやすい報告文を書くこと

1 単元として重点的に付けたい力

○文章全体の構成の効果を活用して、自分の考えを分かりやすく説明することができる。
○相手に分かりやすく伝えるように収集した資料を効果的に使い、自分の報告文を書くことができる。

2 単　元　構　成　（全１６時間）

（第１次）○理科で書いた観察カードと「イルカのねむり方」を比べて、その特徴を理解する。　（１時間）
○学習課題「観察報告文を読んで感想をもった後、自分が目的をもって調べたことを報告しよう」を設定し、児童自身が学習計画を立てる。
（第２次）○「イルカのねむり方」と「ありの行列」を読む。
・文章を３つに分け、「問い」と「答え」を探し、段落の関係をまとめる。　（６時間）
・「答え」を導くために、どのような観察や調査をしたのか、語彙に着目して整理する。
・感想を書く。
（第３次）○理科や総合的な学習の時間に書いた「調査カード」を基に、報告することを決める。　（７時間）
○文章の組み立てを考え、構成表に記入する。
○「イルカのねむり方」や「ありの行列」で見付けたことを基に、「わかりやすい説明文を書くためのポイント」を整理し、確認する。
○調査カードや構成表を基に下書きをする。
○下書きを読み合い、友達の作品のよさを見付けたり間違いを正したり、よりよい書き方に直したりする。
○加筆訂正した下書きを清書し、報告文を完成させる。
（第４次）○報告文をクラスで読み合い、意見や感想を伝え合う。　（２時間）

3 授業の具体的な展開　（１３／１６）

〈本時の目標〉
○下書きを読み合い、互いに報告文のよさを見つけたり、よりよい書き方に直したりすることができる。

1　学習課題を確認する。

下書きを読み合って、より分かりやすい報告文になるようにしよう

2　自分の下書きを読み直す。

〈分かりやすい報告文を書くためのポイント〉
1　題名　2　構成（はじめ・中・終わり）　3　文末表現
4　つなぎ言葉　5　こそあど言葉　6　自分の考え・感想

3　下書きを読み合って、友達の報告文のよさや改善点を考え合う。
(1) 全体で
・報告文の例を読み、全体で話し合いながら、推敲する観点を整理する。

〈推敲する観点〉
1　内容のまとまりごとに段落ができているか
2　句読点や漢字のまちがいはないか
3　つなぎ言葉・こそあど言葉は正しく使われているか
4　主語・述語は正しく使われているか

(2) ペア（又はグループで）
・互いに読み合い、友達への助言を整理する。

4　自分の報告文を推敲する。
・友達からのメッセージを読んで、自分の報告文のよさと改善するとよいところを知り、推敲する。

4 指導のポイント

全体で一つの報告文を推敲する活動をすることで、推敲の観点を明らかにし、共有を図る。

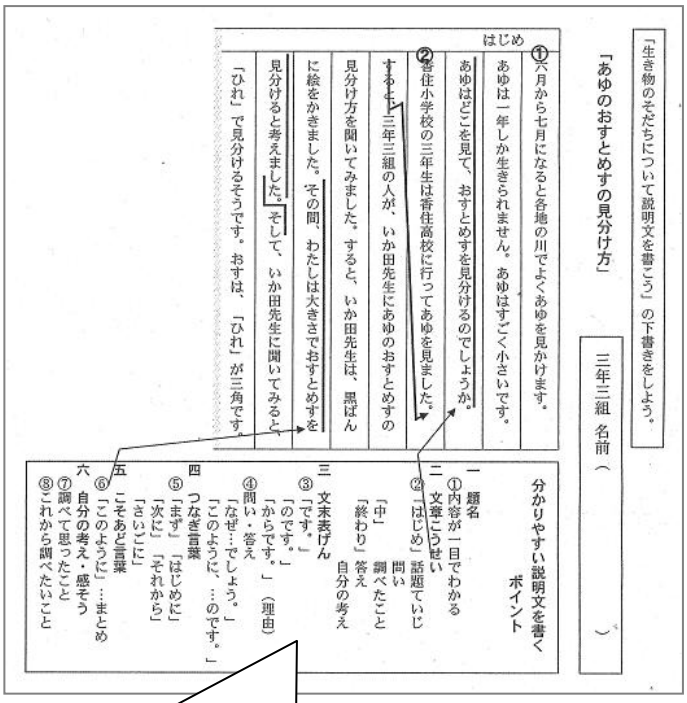
読み合うことにより、友達の工夫を知り、自分の報告文に役立てる。

友達からのメッセージによって明らかになった自分の報告文のよさを確認し、さらに改善させる。

5 思考・判断・表現の評価例

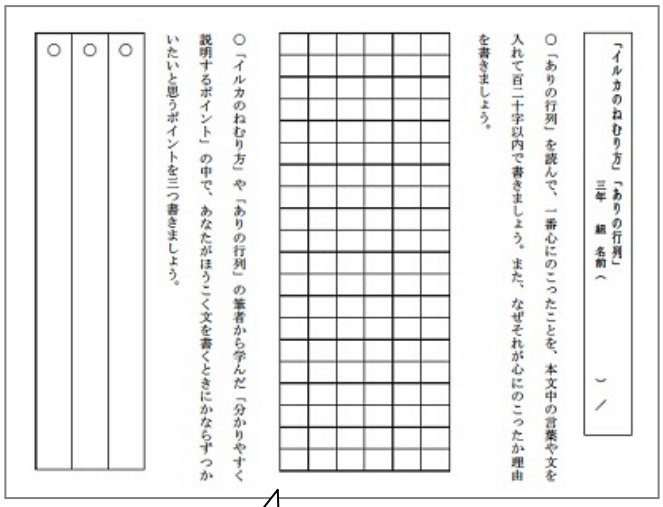
評価の場面	評価方法	内　　容
報告文を読み合う	・付箋	・友達の書いた報告文について、叙述に基づき、具体的によさを認めるコメントを書くことができる。
報告文を推敲する	・ワークシート	・「推敲する観点」や友達からのメッセージに基づき、自分の報告文をより分かりやすい報告文になるように工夫しながら書き直している。

◇下書きの例



【評価のポイント】
・下書きの文章に「ポイント」の各項目の番号を付けたり、線で結び付けたりするなど、「ポイント」に基づいて報告文を見直しているか。

◇「ありの行列」の感想ワークシート



【作成の意図】
・単なる感想の羅列にならないようにさせるために、心に残った文や言葉を引用して書かせる。また、字数制限を加えることで、自分の思いを簡潔にまとめる力を付けていく。

授業改善のためのポイント

○「活用」する場面を意識した単元構成の工夫

・学習内容のまとめ（確認）で単元が終わっていませんか。

⇒

・本単元では、２つの説明文の学習を通して、「分かりやすい説明文のポイント」を整理し、実際に児童がそのポイントを活用して「報告文」を書くという学習活動を取り入れています。

○推敲場面の工夫

・教師が推敲し、その推敲に従って児童が清書するという方法になっていませんか。

⇒

・本単元では、学習活動を通して児童が共有した「分かりやすく説明するためのポイント」に基づいて、児童が互いに推敲する学習活動を工夫しています。また、報告文のよさを伝え合うことで、児童は自信をもち、書くことへの意欲を高めることもできます。

〈 授業の工夫改善例：小学校国語・第５学年 〉　　教材：わたしの「とっておきの一枚」

考えが通い合う感想交流をすること

1 単元として重点的に付けたい力

○スピーチメモの作成や改善の活動を通して、具体的な事実や理由を取り入れ、話の組み立てを工夫して話すことができる。
○感想の伝え方を知ることにより、話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べながら、感じたことを自分の言葉で表すことができる。

2 単　元　構　成　（全６時間）

（第１次）○学習を見通し，テーマ（課題）についての材料を書き出す。　（１時間）
（第２次）○教材文（スピーチ）から、組み立ての工夫（理由・具体例）を理解し、スピーチメモを作成する。　（１時間）
（第３次）○組み立てを主な観点としてスピーチメモを改善する。　（２時間）
（第４次）○感想の伝え方を知り、感想交流会をする。　（２時間）

3 授業の具体的な展開　（５／６）

〈本時の目標〉
○強く感じたことやその理由などと自分の考えや体験と比べ、気付いたことを質問や感想として伝えることができる。
○感想の伝え方を知り、活用することができる。

1　これまでの感想交流の仕方（４年生）を考える。
「伝えたいことは何かを考える」
「自分の体験や経験と比べる」

2　感想の伝え方を知る。
○感想のモデルを分析する①。〈ワーク１〉
○感想のモデルを分析する②。〈ワーク２〉
○自分なりの感想を考える。　〈ワーク３〉

3　感想に対してのコメント（さらなる感想・質問）の仕方を知る。
○コメントのモデルから感想に対するコメントの仕方を知る。〈ワーク４〉

4　２、３を生かして感想交流する。（グループ）
【感想交流の流れ】
・スピーチをする。
・感想を伝える。
・感想を聞いてコメントをする。（スピーチした人）

5　学びの振り返りを言語化する。

4 指導のポイント

これまでの学んだ交流の仕方を想起させ、本時の目標とつなげる。

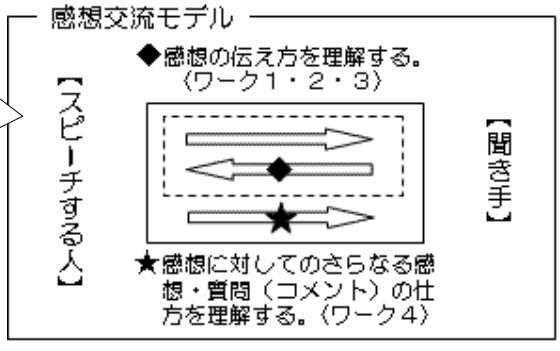
〈ワーク１〉
「モデル」から「強く感じた一言」と「感想」とに分ける。

〈ワーク２〉
２つの「モデル」を比較する。

〈ワーク３〉
ワーク１・２のポイントを意識して自分なりの感想をまとめる。

〈ワーク４〉
感想を受けたコメントの仕方を工夫する。

【原口さんのスピーチ（スピーチする人）】
　ぼくがいちばん大切しているのは、少年野球のチームのみんなといっしょにとった写真です。それは、去年の秋、地区大会の決勝戦の後にとったものです。
　この試合は、最後の回まで同点でしたが、フォアボールとエラーで満るいとなり、最後にヒットを打たれ、ぼくたちは負けました。試合後、くやしくてなみだが止まりませんでした。ほかの五年生の子もみんな泣き出してしまいました。…（略）
　もうすぐ、ぼくたちも六年生です。優勝旗を持って、笑顔で写真がとれるように、がんばって練習したいと思います。



※教科書の事例を参考に、児童の状況に合わせて加筆・修正しています。

5 思考・判断・表現の評価例

評価の場面	評価方法	内　　容
感想のモデルの活用	・ワーク１～４	「強く心に残った一言」と「感想や質問」に分けたり、感想のちがいを書いたりするなど、各ワークのねらいに沿って自分の感想や質問を工夫する。
グループ交流	・発表、観察	考えが通い合う感想交流をするために、学んだ感想の伝え方を活用している。

ワーク１

原口さんのスピーチを聞いて、さちこさんは、右のような感想を伝えました。

さちこさんの発言を「強く心に残った一言」と「感想（伝わったこと）や質問」とに分けましょう。

「強く心に残った一言」を実線で、「感想や質問」を波線で囲みましょう。

さちこ

私の心に強く残ったことを一言で言うと、「心のきずな」です。

みんなで声をかけ合い練習をがんばっていこうとする気持ちが、強く伝わってきました。

【作成の意図】

・「感想の伝え方を知る」ために、「強く心に残った一言」と「感想（伝わったこと）や質問」とに分け、感想を伝える際の発言の組み立てを具体的に理解する。

ワーク２

けんたさんとしんいちさんの発言を比べ、「感想」に着目してちがいを書きましょう。

けんた

原口さんの話を聞いて心に残ったことを一言で表すと、「はげまし合うことの大切さ」です。

六年生がくやしさを見せずに、みんなをはげます声をかけているところがすごいと思いました。

しんいち

ぼくが原口さんの話から強く感じたことを一言で言うと「優勝したいという気持ちの強さ」です。

ぼくはサッカークラブに入っています。原口君と同じように試合に負けたときのくやしさをわすれずにがんばっています。

【ちがいの記述例】

けんたさんは、「はげます声をかけているところがすごい」と原口さんのスピーチの内容から感想を伝えているけど、しんいちさんは、「くやしさをわすれずにがんばっています」と原口さんのスピーチから自分がやっているサッカークラブのことに結び付けて感想を伝えている。

※しんいちさんの感想に自分のことも伝えているも可

ワーク３

あなたも交流に参加することになりました。

原口さんのスピーチを読み、心に残ったことを一言で言い表し、質問や感想を伝えてみましょう。

あなたなら

【強く心に残った一言】

【感想・質問】

【評価のポイント】

・「感想や質問」は、「心に残った一言」を詳しくした（関連性のある）ものであるか。

・単なる感想だけでなく、自分の体験や経験などを入れた感想や質問をしているか。

ワーク４

原口さんは、しんいちさんの感想に対して次のようなコメントを返しました。

下の原口さんのコメントからコメントの仕方を考えましょう。

① ぼくの話から「優勝したいという気持ちの強さ」を感じてくれてありがとう。

練習することが優勝に少しでも近づくことだと信じています。

② しんいちさんも、試合に負けたときのくやしい気持ちをわすれないでがんばっているのですね。

試合に負けた時、何とも言えない気持ちになりますよね。「次こそは！」と思いますよね。

③ ぼくは試合に向けて、必ず声をかけながらボールを取ったり、投げたりしています。

しんいちさんは、次の試合に向けてどんなことをがんばっていますか。

① 引用
発表者の言葉を引用して、自分の思いを伝えている。

② 比較（ 共通点・相違点）
共通点を自分のことに置き換えて詳しくしている。

③ 質問（感想でもよい）
自分自身の取組を言ってから、質問している。

授業改善のためのポイント

○教科書の活用の工夫

・教科書に記載されている「モデル」を読むだけの学習になっていませんか。

・教科書の「モデル」を通して、相互交流の仕方についての学習を深め、「伝え合い」が交流として深まることが大切です。日常的に、引用や感想・質問などの形式を意識させ、相手に伝わりやすい効果的な表現力を身に付けさせることが必要です。

○交流（相互交流）の工夫

・単に「思ったこと」や「気付いたこと」を話す表現活動に終わっていませんか。

・「モデル」から「強く感じた一言」と「感想」とに分けたり、２つの感想モデルを比較させたりするなど、モデルを通して具体的な交流や感想の伝え方を教えることが大切です。

〈 授業の工夫改善例：小学校算数・第４学年 〉　　単元名：「面積」

多面的な見方や考え方を説明すること

1 単元として重点的に付けたい力

○面積の概念を理解し、長方形や正方形の面積の公式を知り、それらを活用して面積を求めることができる。

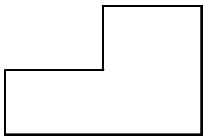
2 単　元　構　成　（全１０時間）

（第１次）○広さくらべを通して、長方形の面積の求め方に関心をもち、これからの学習に対する見通しをもつ。　（１時間）
（第２次）○面積の概念（単位量や作図、面積の公式など）について学習する。　（５時間）
（第３次）○Ｌ字型の図形の面積のいろいろな求め方を考える。また発展的な図形の面積の求め方についても考える。　（１時間）
（第４次）○１㎢の理解や、㎡と㎢の関係、また１ａ,１haの理解やａとhaの関係を知り、大きな面積を求め、面積の単位のよさに気付く。　（３時間）

3 授業の具体的な展開　（７／１０）

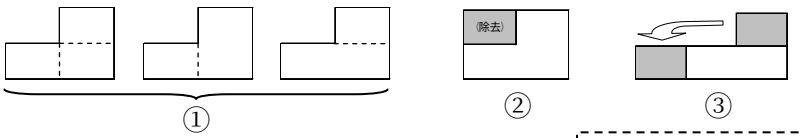
〈本時の目標〉
○複合図形の面積を長方形の面積の公式を使って求めることができる。
○自分の考えを説明したり、友達の説明を聞いたりしながら、いろいろな考え方で面積を求めることができる。

1　本時の課題を知る。
　Ｌ字型の図形を提示する。



このような形をした図形の面積はどうやって求められますか。

2　線を入れて、分けることや、不足の部分を補って引くやり方を考える。

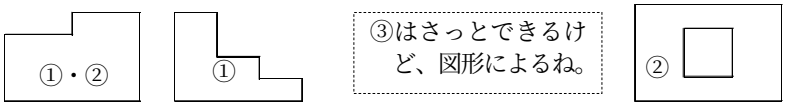


①　②　③

※③は敢えて取り上げる必要はない。（等積変形）

3　自分の考えた求め方を発表し、説明する。
　①分けてたす方法 … ３分割、２分割
　②たりない部分を足して引く方法（補完の考え）
　③その他

4　他の図形の求積に自分たちの考えを適用し、図形によりそれぞれのよさや不具合があることについて検討する。



③はさっとできるけど、図形によるね。

5　同じ面積の図形を作図し、それを交換し求積し合うことにより、出された考え方のよさを生かして求められることをまとめ、算数日記にそのことを書かせる。

4 指導のポイント

・既習の長方形や正方形と違い、そのままでは求められないことを捉えさせる。

・長方形や正方形の面積の求め方が利用できるように工夫することを自力解決の視点とする。
・この場面では求積方法として1つだけ考えさせる。

・説明が教員と発表の児童の対話にならないよう、求め方について式だけ発表させる児童とその式に基づいて考えを説明する児童とに役割を分担し、全体に説明を広げる。

・他の図形を提示し、図形により、用いる求め方のよさや不具合についてペアで検討させる。

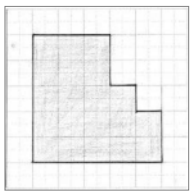
・問題を交換して面積を求めながら、「②が一番よい考え方だと思っていても、どの形でも便利であるとは限らない」といったことに気付かせる。

〈作図の問題例〉

「今日勉強したことを使って、20 ㎠ になる図を作ろう。できた図を友だちと交かんして、おたがいに面積を計算してみよう。」

【評価のポイント】

・面積が 20 ㎠であり、本時で取り扱った求め方が適用できるように作図しているか。



〈「算数日記」から〉

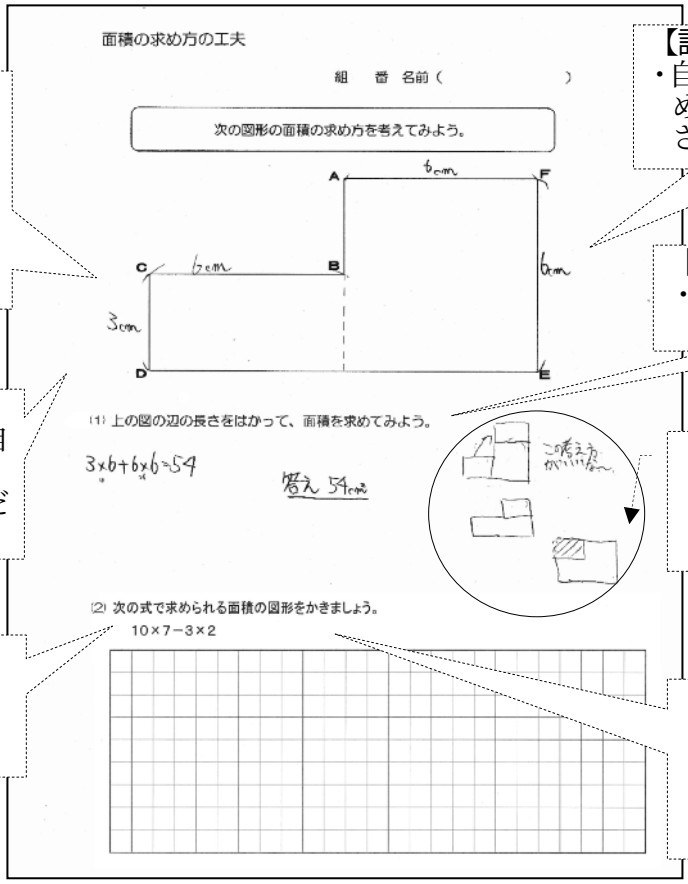
20 ㎠の図を作るのに、長方形の辺の長さを考えるのがむずかしかった。自分で式にしてから○○さんにわたしたら、さっと式にしたのでくやしかったです。

一つの式にしてあったのがすごいと思いました。

5 思考・判断・表現の評価例

評価の場面	評価方法	内　容
L字型や十字、凹型の面積を求める。	・ワークシート ・発表	・複合図形の面積を、線を引いたり補って引いたりしながら、長方形の面積の公式を使って求めることができる。 ・自分の考えや友達の考えを、数学的な言葉を使って説明することができる。

〈ワークシート〉



【作成の意図】
・①分割して求める方法、②補完して全体から引く方法、③等積変形の３つの考えに対応できる図形を提示している。（③は触れなくてよい）

【評価のポイント】
・自分の考えを式にするため、必要最小限の辺の長さを測っているか。

【評価のポイント】
・自分の考えを式に適切に表しているか。

【作成の意図】
・辺の長さを測るときは、自分の考えで求めるために、最小限必要な辺の長さだけを測るように指示する。

【児童の記述から】
・自分と異なる考えについて、メモをとり、コメントしている。

【作成の意図】
・児童の実態に応じて
10×7−3×4−4×5
などにしてもよい。

【評価のポイント】
・補完して全体から引く式を読み取り、それを図の中に表現できるか。

授業改善のためのポイント

○見通し（課題提示）の工夫

・課題を提示し、すぐに自力解決の活動をさせてしまうことがありませんか。

⇒

・長方形や正方形の面積の公式を確認し、解決の見通しをもたせてから自力解決の活動をさせることが大切です。

○ 振り返りの工夫

・複合図形の求積で、例えば「斜めに分割する方法」なども含め、「今日は、いろいろなやり方が見付けられてよかったね」といったまとめになっていませんか。

⇒

・他の図形を求積させる活動を通して、出された考えのよさや不具合をきちんと整理する場面が必要です。
・「算数日記」を書かせ、学習した内容を自分の言葉で言語化させることも大切な活動です。

〈 授業の工夫改善例：小学校算数・第５学年 〉　　単元名：「割合」

日常的な事象を数学的な表現を用いて説明すること

1 単元として重点的に付けたい力

○２つの数量の関係について、関係図や線分図等を使いながら筋道立てて考えて表現することができる。

2 単　元　構　成　（全１６時間）

（第１次）○身の回りの生活から割合が用いられている場面を取り上げ、割合に対する興味関心を高める。　（１時間）

（第２次）○「割合」と「比べる量」、「もとにする量」の関係を図や式等を基に整理して考える。　（４時間）

○百分率を使った問題を解く。　（５時間）

（第３次）○割合を表すグラフ（円グラフや帯グラフ）の読み取り方と描き方を知り、身近な事象をグラフに表す。　（３時間）

（第４次）○割合（和・差・積）を使った問題を解く。　（２時間）

○買い物場面を想定した問題を作り、互いに交流する。　（１時間）

3 授業の具体的な展開　（１４／１６）

〈本時の目標〉
○日常生活の事象を取り上げ、割合の和や差を考えながら問題を解決することができる。

1　本時の課題を知る。

19600 円の自転車を 40%引きで買う時の代金の求め方を考える。

・ワークシートの広告を見て，前時までとの題意の違いを知る。
・２量の関係を図や簡単な言葉に直して考える，代金を求めて比べるとよいという見通しをもたせる。

○%引きが前と違うな。40%引きってもとの値段の何倍になるのかな

2　図を使ったり言葉でまとめたりして考える。

(1) A商店の場合

【関係図】

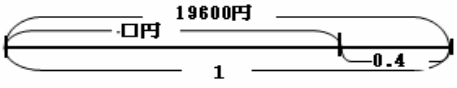
①
既習の考え

もとの値段	→（　　）倍→	値引き	→	代　金
円		円		円

②
本時の考え

もとの値段	→（　　）倍→	代　金
円		円

【線分図】



【簡単な言葉で表す】図と言葉をつなぎ２量の関係を簡潔に捉える。
○どの言葉が図のどの部分にあるかを整理しながら求め方を考える。

3　図を用いて求め方を説明し，２つの考え方の違いを明確にする。

①19600×0.4=7840　19600−7840=11760
②19600×(1-0.4)=11760
③19600×0.4=7840…誤答

①は始めに値引き金額を出して引く。「何%を求めて，引く」ということ。言葉通りで分かりやすいな。

②はまず代金がもとのどれだけにあたるかを考える。「代金はもとの値段の（1−○）になる」ということ。式がすっきりしているな。

4　本時のまとめをして，適用題を解く。

「○%引き後の量」＝（もとにする量）×（1から割合を引いた数）

4 指導のポイント

・既習の求め方に比べ「割合の分を引く」ことが前時までとの違いであることを捉えさせる。

・関係図を使うことで既習の求め方（順々に解く）と割合の差に目をつけて考える方法（まとめて考える）との違いが明確となる。

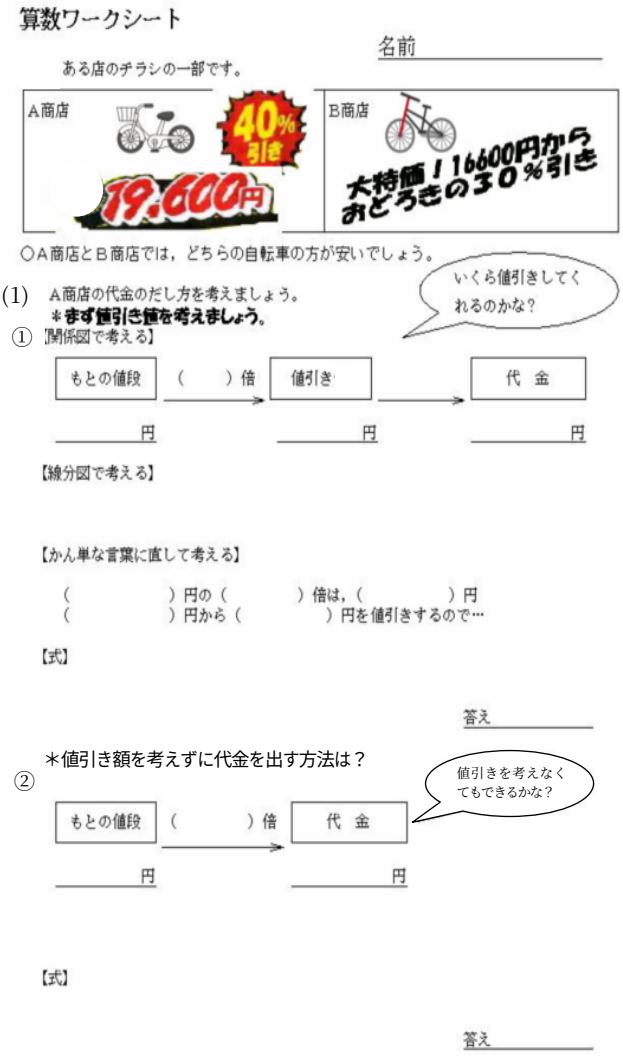
・図から割合の和や差がどこにあたるかをペアで説明させ、既習の公式が使えるよさを話し合いの中から実感させる。

・③のような児童には求めた金額が図のどこにあたるか、値引き額と代金の違いを取り上げて明確に捉えさせる。

・本時のまとめや振り返りを書かせ、自分なりの表現で学習を振り返らせるとともに、筋道立てた考え方を数学的な用語を用いて表現できる力を育てる。

5 思考・判断・表現の評価例

評価の場面	評価方法	内　　容
線分図・関係図等や言葉の式を使いながら自分の考えを表現する。	・ノート ・ワークシート	・題意を踏まえて「比べる量」「もとにする量」「割合」を捉え、線分図・関係図を描くことができている。 ・線分図・関係図と式を結ぶ役目を果たす「言葉」による説明を筋道立てて書いている。


算数ワークシート

名前＿＿＿＿＿＿

ある店のチラシの一部です。

A商店　40%引き　19,600円

B商店　大特価！16600円から　おどろきの30%引き

○A商店とB商店では，どちらの自転車の方が安いでしょう。

(1) A商店の代金のだし方を考えましょう。

＊まず値引き額を考えましょう。

いくら値引きしてくれるのかな？

① 【関係図で考える】

もとの値段 (　　)倍 値引き 代金

＿＿＿円　＿＿＿円　＿＿＿円

【線分図で考える】

【かん単な言葉に直して考える】

(　　)円の(　　)倍は，(　　)円

(　　)円から(　　)円を値引きするので…

【式】

答え＿＿＿＿＿＿

② ＊値引き額を考えずに代金を出す方法は？

値引きを考えなくてもできるかな？

もとの値段 (　　)倍 代金

＿＿＿円　＿＿＿円

【式】

答え＿＿＿＿＿＿

【評価のポイント】
- 思考の流れを図→簡単な言葉→式という流れに沿って、２量の関係を筋道立てて考えることができているか。

【作成の意図】
- 考え方が理解できたら、自分の解きやすいやり方でさせる。ただし、自分の考えを表現できることは大切。
- その中で、いろんなやり方の交流を通じて、比較・検討しながら理解を深めさせる。

【評価のポイント】
- 最終的に「式」の中に、考え方が表現できているか。

授業改善のためのポイント

○ 説明の工夫

・誤答をそのままにしたり、誤答であると指摘したりするだけで終わっていませんか。

⇒ ・全体で共有する「価値のある誤答」を取り扱うことにより、他の考えにつながるよさとし生かすことができます。

・立式から答えを導く際、立式の根拠が全員に分かりやすく伝えることができていますか。

⇒ ・図、言葉、式を結びつけながら説明させることにより、筋道をたてて分かりやすく説明しようとする力を育むことができます。

○ 振り返りの工夫

・教科書の練習問題を解くことだけで学力の定着を図っていませんか。

⇒ ・練習問題の内容を日常生活の場面と結び付けて児童の身近な問題として捉えさせたり、日常生活に即した問題を解決させたりすることによって、より効果的な定着を図ることができます。

〈 授業の工夫改善例：中学校国語・第２学年 〉　　教材：走れメロス

自分の考えをまとめ、意見を交流すること

1 単元として重点的に付けたい力

○描写の効果や登場人物の言動の意味を考え、登場人物の心情を読み取ることができる。
○登場人物の人物像などについて、文章中の表現を引用しながら自分なりの考えをもって表現できる。

2 単　元　構　成　（全８時間）

（第１次）○「走れメロス」を通読し、初発の感想をもつとともに、「人物関係図」を作成する。　（１時間）
（第２次）○場面分けや各場面の見出しを付けて文章の構成を捉え、擬態語や漢語表現等の表現効果について理解する。　（２時間）
（第３次）○メロスの心情の動きを中心に登場人物の心情を読み取り、主題を考える。　（３時間）
（第４次）○「学習タイム」を通じて、太宰治の代表作を読んできたことを踏まえ、その批評文を書く。　（２時間）

3 授業の具体的な展開　（５／８）

〈本時の目標〉
○効果的な表現を捉え、メロスの心情の変化を読み取り、なぜ走り続けたかについて考えをまとめることができる。(200 字作文)

1　本時のねらいを確認する。

メロスの心情の変化を読み取りながら、メロスがなぜ走り続けたのかを考える。

2　再び走り始め、走り続けたメロスの心情を考えながら、場面を音読させる。

3　メロスの心情の変化を読み取り、考えを発表し合う。
○「斜陽は赤い光を、木々の葉に投じ、葉も枝も燃えるばかりに輝いている」という情景をメロスはどんな思いで見つめたのだろう。
・該当の文をノートに視写させる。
・自分の考えをノートにまとめさせる。

○「信じられているから走るのだ。間に合う間に合わぬも問題ではない。人の命も問題ではない。わたしは、なんだか、もっと恐ろしく大きいもののために走っているのだ」にある「もっと恐ろしく大きいもの」とは何だろう。
・該当の文をノートに視写させる。
・自分の考えをノートにまとめさせる。
・「もしメロスが再び走らなければどうなるか」をペアで話し合わせ、発表させる。

4　「走れ！　メロス」という言葉どおり、再び走り出すメロスに対する自分の考えを「200 字作文」にまとめる。
・ペアで書いた作文を読み合い、ねらいや観点に即した表現や内容になっているか、意見を交流する。

4 指導のポイント

ペアで話し合わせ、ノートにメモをさせてから発表させる。

メロス自身が自分を励ます言葉であり、読者がメロスを励ましている言葉であることを理解し、自分自身の言葉でメロスを励ます作文を書かせる。

自分の考えの基となる「ひき付けられた言葉」を文頭に置いて考えをまとめさせる。

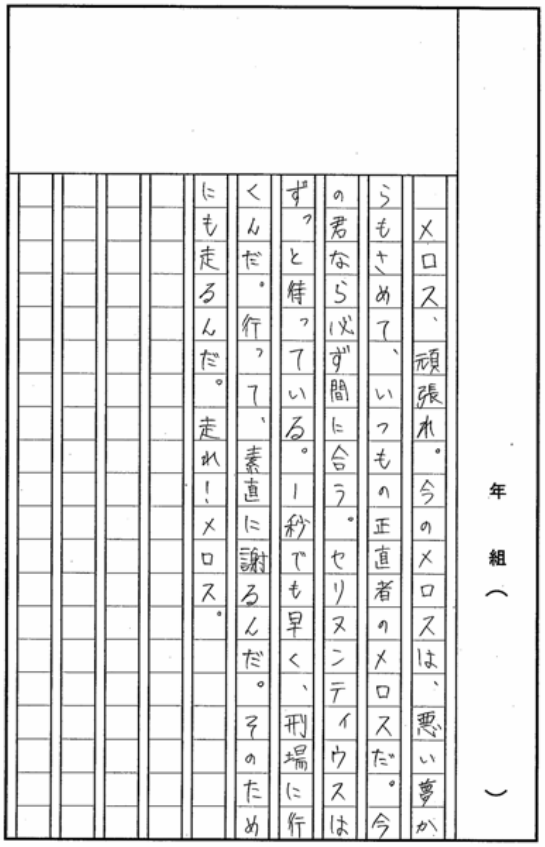
5 思考・判断・表現の評価例

評価の場面	評価方法	内　　容
自分の考えを２００字作文にまとめる。	・発表 ・２００字作文	・文章中の表現を引用し、場面の展開や描写、人物の心情について要約しながら、メロスの心の変化を捉え、自分の考えをまとめている。

○条件付き作文（200 時作文原稿用紙）

【評価のポイント】
・注目した描写や心情をメモしているか。

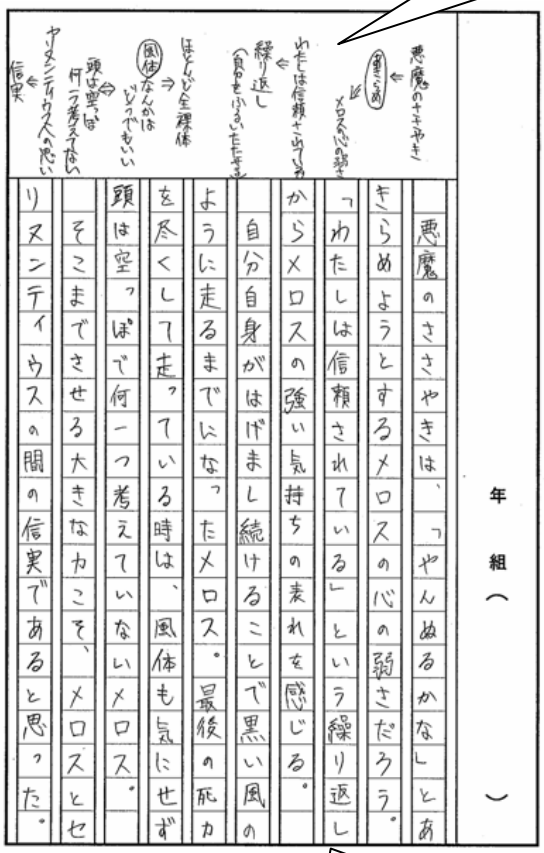
〈本時の前に書いた作文〉



メロス、頑張れ。今のメロスは、悪い夢からもさめて、いつもの正直者のメロスだ。今の君なら必ず間に合う。セリヌンティウスは ずっと待っている。一秒でも早く、刑場に行くんだ。行って、素直に謝るんだ。そのためにも走るんだ。走れ！メロス。

年　組（　）

〈本時に書いた作文〉



悪魔のささやきは、「やんぬるかなしとあきらめようとするメロスの心の弱さだろう。「わたしは信頼されている」という繰り返しからメロスの強い気持ちの表れを感じる。自分自身がはげまし続けることで黒い風のようにに走るまでになったメロス。最後の死力を尽くして走っている時は、風体も気にせず顔は空っぽで何一つ考えていないメロス。そこまでさせる大きなかこそ、メロスとセリヌンティウスの間の信実であると思った。

年　組（　）

【評価のポイント】
・効果的な表現や登場人物の心情等に着目して書いているか。

授業改善のためのポイント

○ 条件を付した短作文指導の工夫

・○○を読んでの感想文（読書感想文）、体験作文（行事等）など、特別な時や行事があった時にだけ、たくさんの枚数の作文を書かせていませんか。

→ ・条件作文等、条件を付した「書くこと」を日常的に実施することで『書く』ことへの抵抗感をなくすようにします。また、効果的なメモや表現の工夫を評価することで『書く』ことへの意欲を高めます。

○推敲の工夫

・条件を付して書かせた場合であっても、誤字や脱字だけの推敲で終わっていませんか。

→ ・条件に即しているか、どのような観点で推敲するのかを理解させた上で、自己評価や相互評価を行うことが大切です。それにより、自分で見直す（吟味する）力や表現への自覚が高まります。

〈 授業の工夫改善例：中学校国語・第３学年 〉　　教材：「俳句の可能性」

俳句に親しみ、読み味わうこと

1 単元として重点的に付けたい力

○感動の中心が効果的に伝わるように、語句や語順を工夫して俳句を作ることができる。
○俳句の言葉を引用し、鑑賞文を書くことができる。

2 単　元　構　成　（全５時間）

（第１次）○俳句に込められた思いや情景などを想像し、イメージの広げ方を感覚的につかむ。（１時間）
○季語、切れ字等、俳句に係る既習事項を確認する。
（第２次）○「俳句の可能性」に紹介された五句について、込められた情景や心情を想像したことをまとめる。（１時間）
○「俳句の可能性」に紹介された五句とその解説文を読み、「季語」「歳時記」「有季定型」「切れ字」「自由律俳句」「無季俳句」の意味を実際の俳句をもとに捉える。
○表現の工夫や効果等について確認する。
（第３次）○「俳句十六句」の各句について、言葉の意味や音律を意識しながら音読をする。（２時間）
○十六句の中から好きな一句を選び、選んだ理由や作品のイメージについて意見交流をする。
○鑑賞発表会の準備をし、各グループで発表する。
（第４次）○〈句会〉テーマを決めて俳句を作る。（１時間）
○グループで作品を交換し、よりよい作品となるよう相互に意見交流する。

3 授業の具体的な展開　（3・4／5）

〈本時の目標〉
○表現から情景や作者の思いなどのイメージをふくらませる活動を通して、鑑賞文を書くことができる。

1　「俳句十六句」を読む。
・各句の情景や心情等が効果的に伝わるように音読する。
・疑問点や不明なことについては、必要に応じて助言を聞く。
・好きな句を一つ選んでワークシートに視写し、選んだ理由や想像した情景をまとめる。

2　鑑賞文の発表原稿を作成する。
・模造紙に選んだ句を写し、①表現上の工夫(季語、切れ字等)、②イメージ(風景、音(声)、色、匂いなど)、③作者の思い等の観点を明確にして各自の意見を付箋に書いて貼り付け、鑑賞の意見交流をする。
・意見交流をもとに、鑑賞文をまとめる。

3　各グループで鑑賞文を発表する。
・発表を聞いて、気付いたことや尋ねてみたいことを出し合い、鑑賞を深める。

4　鑑賞文のまとめ方を整理する。
・分かりやすかった発表をもとに、鑑賞文のまとめ方を整理する。

4 指導のポイント

・前時までの学習をもとに、ひきつけられる言葉や、表現上の工夫等、根拠を明確にしながらまとめさせる。

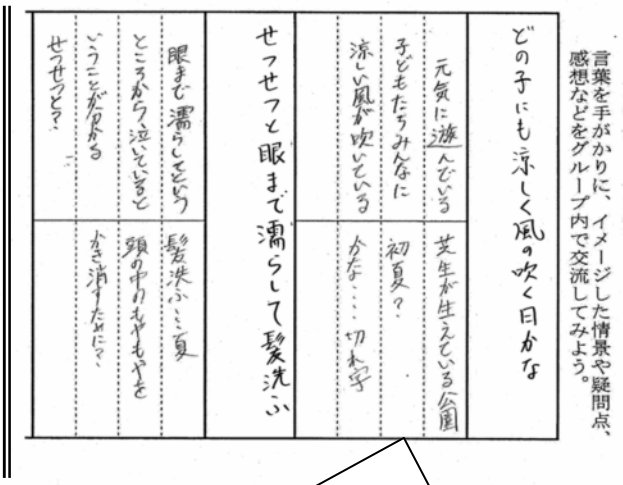
・同じ俳句を選んだ生徒同士でグループを構成する。
・ＫＪ法を取り入れ、各自の意見の伝え合いを通して、共通点や相違点を明らかにさせ、グループの中で、積極的に意見交流させ、鑑賞文をまとめる。

・整理した上で、まとめ方として定形化し、鑑賞文を書くためのポイントとしてとらえさせる。
（鑑賞文の記載例：参照）

5 思考・判断・表現の評価例

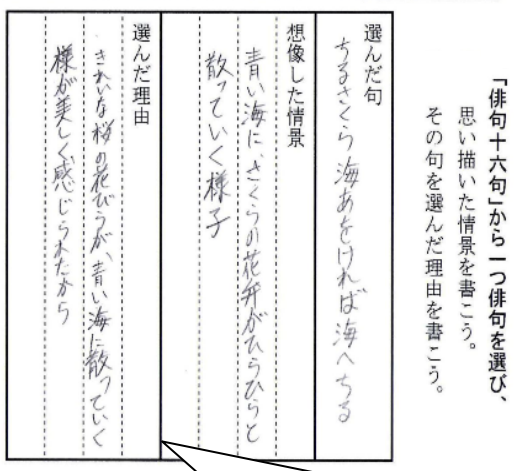
評価の場面	評価方法	内　容
鑑賞文を書くこと	・ワークシート ・発表、観察	・表現上の工夫、イメージ、作者の思い等の観点を明確にして、感動の中心が効果的に伝わるように鑑賞文を書き、相互評価を通して高め合っている。

〈ワークシート①〉



【評価のポイント】
○解説や交流を通して情景を読み味わったり、表現の工夫や効果を確認したりすることができているか。

〈ワークシート②〉



【評価のポイント】
○言葉を手がかりに情景等のイメージを表現できているか。
○選んだ理由や感想の内容が適切に書けているか。
○「よかった」「すばらしい」などの言葉を用いずに書けているか。

〈鑑賞文の記載例〉

○選んだ俳句
　ちるさくら海あをければ海へちる
○大意
　散っていく桜の花びら。海が青いので海へと散っていく。
○鑑賞文
　私がこの俳句を選んだのは、真っ青な海に散っていく花びらのピンクという情景が想像できたからだ。
　私はまず「海あをければ」いう言葉にひきつけられた。そこからは、吸い込まれるような海の青さが感じられる。また、「ちる」が繰り返して用いられているのは、散り続ける桜の花びらを表そうとしているのだと思う。

【作成の意図】
○整理した「鑑賞文のまとめ方」に基づき、下線の箇所を定型化し、まとめやすくしている。
○波線の箇所のように、表現の工夫に着目する記述もできる構成にしている。

授業改善のためのポイント

○推敲活動の工夫

・発表を聞いたり、他の生徒の文を読んだりする活動の中で、「気付いたこと」や「よかったこと」を言わせるだけになっていませんか。

⇒

・鑑賞文のまとめ方を生かして、鑑賞文を書く場を設定し、観点を明確にして相互評価させる活動が大切です。これにより、自分で俳句を作る創作意欲も高まり、自作の俳句の質も高めることができます。

○学習活動の形態の工夫（交流）

・一斉指導による鑑賞になりがちではありませんか。

⇒

・本時では、グループで意見を交流させながら鑑賞文の内容を高める工夫をしています。生徒が相互に内容と書き方について意見交流するような活動を工夫し、積極的に設けていくことが大切です。

〈 授業の工夫改善例：中学校数学・第２学年 〉　　単元名：「一次関数」

事象を数学的に考察すること

1 単元として重点的に付けたい力

○必要な情報をグラフや図表から読み取ったり、目的に応じて表、式、グラフを用いて適切に説明したりすることを通して、一次関数を活用しながら問題を解決することができる。

2 単　元　構　成　（全１９時間）

（第１次）既習の比例とは異なる関数関係を見いだし、一次関数の特徴について理解する。（４時間）
（第２次）表、式、グラフを相互に関連付けながら、グラフをかいたり、式を求めたりする。（６時間）
（第３次）二元一次方程式と一次関数の関係を見いだす。（３時間）
（第４次）事象の中から一次関数を見いだし、一次関数を用いて問題を解決する。（６時間）

3 授業の具体的な展開　（１７／１９）

〈本時の目標〉
○一次関数の既習事項をもとに、日常生活に即した問題を解決しながら、表・グラフ・式の関連と適切な活用方法を理解する。

1　本時の課題を把握する。

ある携帯電話会社には、次の料金プランがある。

	月額基本使用料	１分ごとの通話料
Ａプラン	3000円	25円
Ｂプラン	1200円	40円

どちらがお得なプランなのか考えてみよう。

・「自分ならどちらを選ぶか」を考えることで表やグラフを用いて整理する必要性を実感する。
・Ａ・Ｂどちらのプランも料金が通話時間の一次関数になっていることに気付く。
・言葉の式から一次関数の式をつくる。

１ヶ月の使用料 ＝ 月額基本使用料 ＋ １分ごとの通話料 × 通話時間

「選ぶときのポイントは何だろう」
「よく話す人はＡプランが得じゃないか」
「あまり話さない人は、Ｂプランが得じゃないか」
「では、２つのプランの境目になる通話時間は何分になるんだろう」
⇩
表やグラフ、式を使って整理してみよう

2　表・グラフ・式を用いてＡ，Ｂプランの境目を求め、自分の考えをまとめる。
①表で整理する。
②整理した表をもとにグラフ化する。
③連立方程式を利用する。

3　まとめられた表やグラフ、式を提示し、それぞれのプラス面やマイナス面を話し合う中で、表やグラフ、式を関連付けて考えるよさに気付く。

「表に整理すると、Ａ，Ｂプランの料金の比較がしやすくなるが、どの程度細かな表にするのか、見通しをもつ必要がある。」
「グラフにすると、交点によって見た目でどちらが得かが分かるが、グラフ作成のために表や式が必要になり手間である。」
「グラフの交点が連立方程式の解であることから、式だけでも求められるが、料金の全体像がつかみにくい。」

4　家庭学習の課題を提示する。

Ａ・Ｂプランに、次のＣプランが加わった。

	月額基本使用料	１分ごとの通話料
Ｃプラン	7200円	０円

Ｃプランが他のプランに比べて得になるのは、どんな場合か考えてみよう。

4 指導のポイント

・話し合いを通して、「何が問題となるのか」を主体的につかませる。
・言葉の式から一次関数を導かせる。

・必要に応じて、表やグラフを用いる場合の表し方（１目盛りをいくらにするのか等）について助言する。

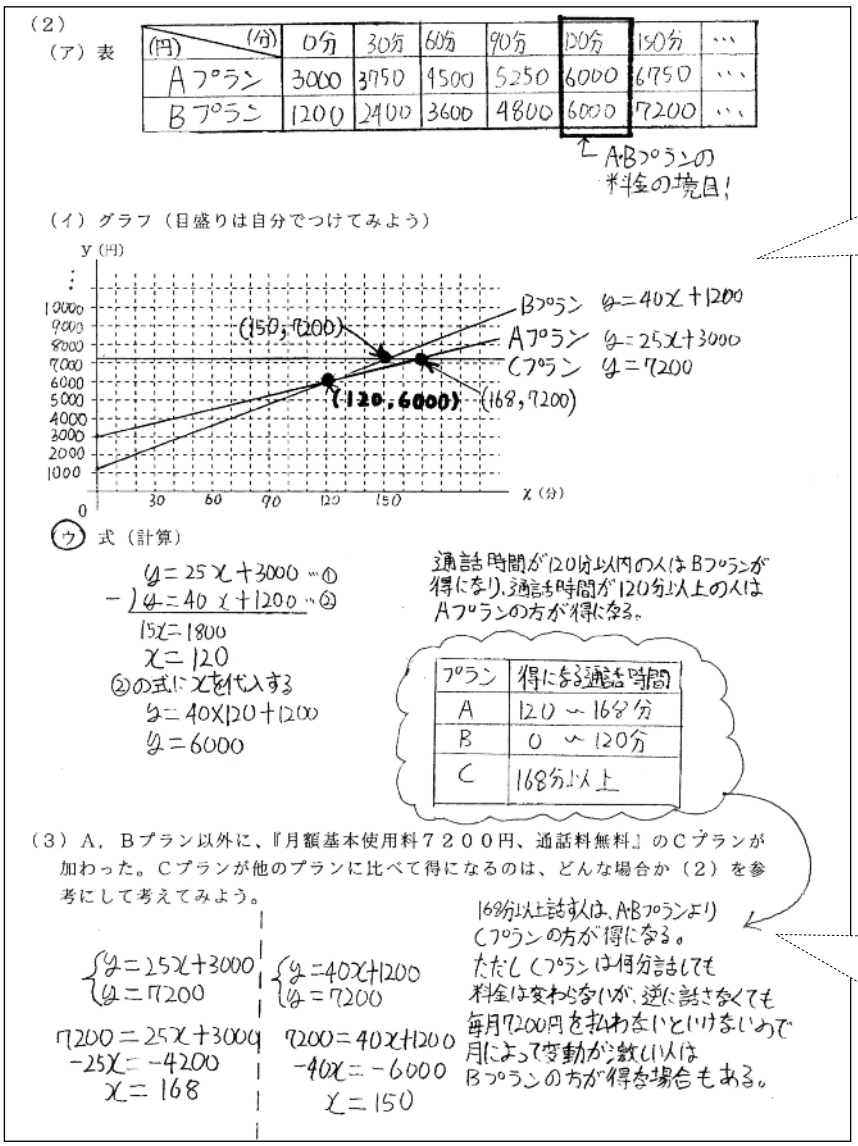
・自分の考えを発表させるだけでなく、他の生徒の説明の分かりやすい点や疑問点を交流することによって、考えを深めさせる。
・表や式、グラフの三者を関連付けて考えることが大切であることに気付かせる。

・本時でまとめた表や式、グラフを活用して、Ｃプランを付け加えると考えやすいという見通しをもたせる。

5 思考・判断・表現の評価例

評価の場面	評価方法	内　容
一次関数を用いて、問題を解決する。	・ワークシート ・グループ討議	・事象を一次関数とみて考察できている。 ・事象を一次関数の表、式、グラフを用いて的確に表現している。 ・表、式、グラフを関連させて根拠や理由を説明し、問題解決に取り組んでいる。

〈ワークシート〉



〈表とグラフを関連づけて説明した例〉

【評価のポイント】
○表、式、グラフを用いて的確に表現できているか。
・表やグラフの数値は適切か。
・A，Bプランの境目を確実に捉えているか。
・説明は適切か。

〈新しい問題に取り組むに当たり、既習の内容（式・表）を活用した例〉

【評価のポイント】
○説明の根拠や理由に、式、表、グラフを活用できているか。
・既習の内容と関連付けられているか。
・説明は適切か。

※自分なりの考察を書き加えている点にも注目したい。

授業改善のためのポイント

○ 記述・説明の工夫

・一次関数は「グラフをかくこと」であると捉えている生徒はいませんか。

⇒ ・１つの事象について、表、式、グラフを使って説明させ、問題解決のためには三者を関連させて考えることが有効であると捉えさせる指導の工夫が必要です。

○ 振り返りの工夫

・グラフをかいたり式を求めたりするなど、数学的な技能を高める学習が中心になっていませんか。

⇒ ・日常生活の事象に関連した問題を取り扱うことにより、関数の意義を実感させるとともに、数学的な思考力・判断力・表現力等を高めることが大切です。

〈 授業の工夫改善例：中学校数学・第２学年 〉　　単元名：「図形の合同」

図形の特徴を的確に捉え、数学的表現を用いて説明すること

1 単元として重点的に付けたい力

○情報を正しく読み取り、平行線と角の関係や三角形の合同条件を根拠にした証明の進め方を理解し、筋道を立てて説明・論証することができる

2 単　元　構　成　（全１６時間）

（第１次）○対頂角の性質、平行線の性質、多角形の角について理解する。　（７時間）
（第２次）○図形の性質や三角形の合同条件を理解し、それらを用いた証明ができることを知る。　（３時間）
（第３次）○証明の進め方とそのしくみを理解し、証明の根拠となることがらを明らかにしておく必要性を理解する。　（２時間）
（第４次）○三角形の合同条件を使って、基本的な問題について証明する。　（４時間）

3 授業の具体的な展開　（１３／１６）

〈本時の目標〉
○合同条件を使って、辺の長さや角の大きさが等しいことを証明することができる。
○根拠を明らかにすることの大切さを理解する。

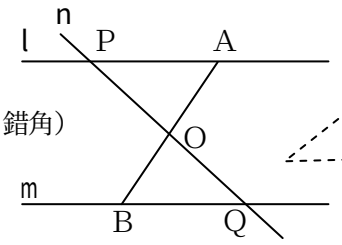
1　本時の課題

ｌとｍが平行で、線分ＡＢの中点Ｏを通る直線ｎが、ｌ、ｍと交わる点をそれぞれＰ，Ｑとするとき、
「ＡＰ＝ＢＱ」であることを証明する。

(1)等しい辺や角を見つける。
・ＡＯ＝ＢＯ
・∠ＯＡＰ＝∠ＯＢＱ（錯角の位置関係）
・∠ＡＯＰ＝∠ＢＯＱ（対頂角の位置関係）

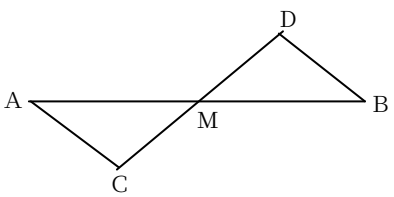
(2)仮定と結論をはっきりさせる。
〔仮定〕ｌ∥ｍ,ＡＯ＝ＢＯ　　〔結論〕ＡＰ＝ＢＱ

2　証明の流れを知る。
△ＯＡＰと△ＯＢＱで
仮定より　ＯＡ＝ＯＢ（ＯはＡＢの中点）
∠ＡＯＰ＝∠ＢＯＱ（対頂角）
∠ＯＡＰ＝∠ＯＢＱ（平行線における錯角）
１辺とその両端の角がそれぞれ等しいので
△ＯＡＰ≡△ＯＢＱ
よって、ＡＰ＝ＢＱ



3　練習問題（次頁参照）

右の図で，ＣＭ＝ＤＭ，∠Ｃ＝∠Ｄです。
このとき，次の問に答えなさい。
(1) ＡＣとＢＤの間には、どのような関係が成り立つと予想できますか。



(1)で予想したことをグループで自由に話し合い、その根拠も示すようにする。

(2)は宿題として、次時の予告を聞く。

4 指導のポイント

・長さが等しい辺や大きさが等しい角を見付け、印を図に入れさせる。
・また、その根拠を説明させる。
① 平行線の性質（同位角、錯角）
② 対頂角とその性質

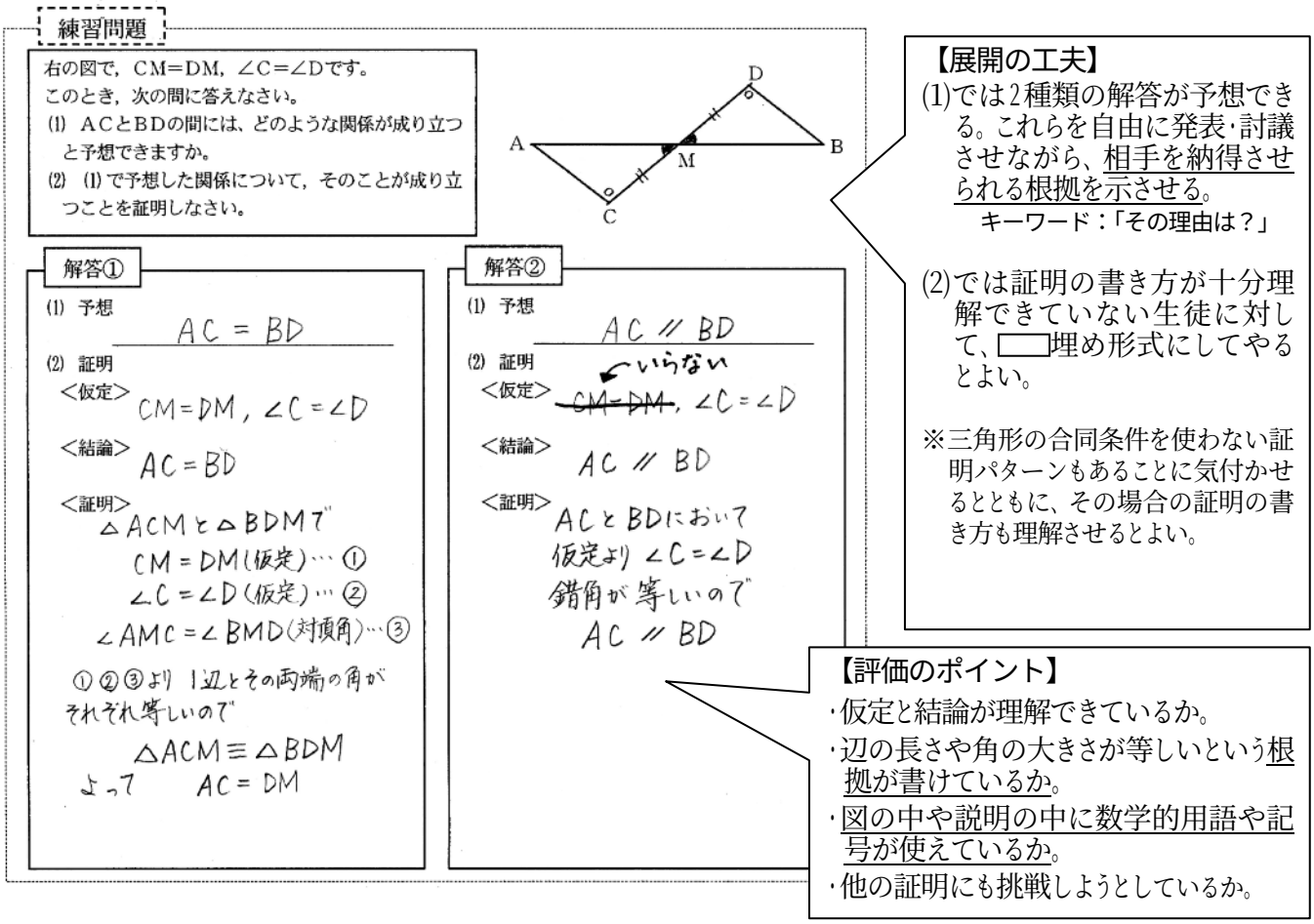
・三角形の合同を使って、証明する手順を明らかにする。
・結論(ＡＰ＝ＢＱ)や、まだ等しいとは分かっていない辺(ＯＰ＝ＯＱ)や角を示さないよう留意する。

(2)は宿題として、根拠を示しながら証明を自分で書いてみることが大切であることを伝える。

5 思考・判断・表現の評価例

評価の場面	評価方法	内　容
合同条件を使って証明する。	・ワークシート ・練習問題	・等しい関係の辺や角を見付け、理由が言える。 ・証明の筋道が明らかになっている。 ・数学的用語を適切に使って説明できている。 ・他の証明の考え方にも挑戦している。

〈ワークシート〉



【展開の工夫】

(1)では2種類の解答が予想できる。これらを自由に発表･討議させながら、相手を納得させられる根拠を示させる。
キーワード：「その理由は？」

(2)では証明の書き方が十分理解できていない生徒に対して、□埋め形式にしてやるとよい。

※三角形の合同条件を使わない証明パターンもあることに気付かせるとともに、その場合の証明の書き方も理解させるとよい。

【評価のポイント】

・仮定と結論が理解できているか。
・辺の長さや角の大きさが等しいという根拠が書けているか。
・図の中や説明の中に数学的用語や記号が使えているか。
・他の証明にも挑戦しようとしているか。

授業改善のためのポイント

○見通し（課題提示）の工夫

・問題における「仮定」や「結論」を生徒に十分に理解させずに証明をさせようとしていませんか。

⇒

・「仮定」を黄色、「結論」を赤色にマーキングしたり、等しい辺や角、平行線の関係にある線分などには印を付けたりするなど、見えてこなかった関係や、対応する辺の長さや角の大きさなどを見付けやすくし、証明すべき「結論」に向けての思考を補助することが大切です。これにより、証明するときには対応していないものを選ぶことが少なくなります。

○ 説明の工夫

・ノートにばかり証明をまとめさせようとしていませんか。

⇒

・ノートにまとめた場合は、ペアトークなどで説明し合うことで、自分の考え方をより明確に伝えられるようになります。また、相手の説明で分かったことをメモに取らせることも重要です。

〈指導方法の工夫改善事例〉

基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図る取組

① 授業内容や家庭学習と関連付けた「学習タイム」の推進

■　授業内容と関連させて適切な教材を選択したり、児童生徒が自分の定着状況を振り返ることができる評価問題を出題したりするなど、指導内容・方法の充実を図る。

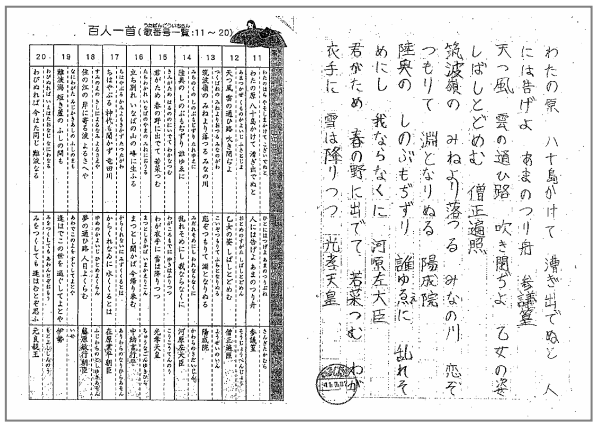
事例１　小学校の取組例

① 週４回の「学習タイム」(10 分間）：全学年
② 算数、国語の授業内容に対応させた課題
③ 各教科における言語活動の基礎となる課題

・授業で学習している単元の内容について、学年をさかのぼって反復（スパイラル）による学習指導。
・時間を計り、集中力も養う。

火	水	木	金
「おすすめの本」の紹介、新聞記事を要約し、感想を入れたスピーチ	計算力を上げるためのスキル学習（時間・正答率を個人で記録）	古文（百人一首・短歌など）と長文（教科書・文学教材）の視写	補充学習・評価テスト 算数･国語の学習の復習プリント

事前に家庭学習で新聞記事を読み、スピーチ内容をまとめておく。



〈児童の視写の例〉

事例２　中学校の取組例

① 週４回の「学習タイム」(10 分間)の取組
② 授業の進度に対応させた課題の設定
③ 週毎に実施教科を設定

教 科	火	水	木	金
国　語	漢字の反復練習	条件作文	文法	補充・評価テスト
社　会	社会的事象の理解（説明・論述）	分野別の学習	分野別の学習	補充・評価テスト
数　学	計算の反復練習	既習事項の復習問題	既習事項の復習問題	補充・評価テスト
理　科	原理・法則の理解（説明・論述）	分野別の学習	分野別の学習	補充・評価テスト
外国語	単語・連語・慣用表現	リスニング	基本構文	補充・評価テスト

既習内容の定着状況の確認。自己評価 → 定着状況に応じた補充問題の選択。

事例３　家庭学習との関連を図る実施例

① 評価テストを活用し、習熟の程度に応じた宿題（コース別）の設定。
② 宿題での誤答や別解を学習タイムや授業の導入に活用し、家庭学習と学習タイム、授業との関連を明確化。

※　小中学校で活用できる取組には、特に小学校・中学校と記載していません。

② 習熟の程度に応じた少人数授業等、個に応じた指導の充実

■　児童生徒の興味・関心や習熟の程度、単元の特性などに応じて、教材を作成したり、学習集団を編成したりするなど、個に応じたきめ細かな指導の充実を図る。

事例１　小学校（第５・６学年「兵庫型教科担任制（少人数授業）」）の取組例

①　算数科において、単元の学習内容や児童の実態に合わせながら少人数指導と同室複数指導とを適切に選択し、学習内容の確実な定着を図る。

・児童の理解度や習熟の程度に応じて少人数または同室複数指導等、効果的な授業形態を選択して学習を進める。

②　グループ編成の工夫

○　一人一人の学習の取組状況を把握し、個に応じたきめ細かな指導による学習内容の確実な定着を図る。

・　一単元の中で評価を複数回行い、児童がそれをもとにグループを選択するなど、習熟の程度に応じてグループを分割する。習熟度別にグループを分割する。
・　児童が主体的に問題解決学習を展開するために、複数のワークシートの様式や活用方法を準備し、ガイダンス等により、児童がコースを選択する。

○　意見交流など、言語活動の充実を図るため、小集団で討議する機会を増やす。

・　授業で、ペアやグループによる討議場面の設定や時間を必ず確保し、同室複数指導により、ペアやグループの指導を行う。
・　児童の思考力・判断力を高めるため、討議のテーマ別にグループ分けをし、自分の考えと比較しながら、教え合いや意見交流する活動を重視する。

事例２　中学校の（希望型「習熟の程度に応じた少人数指導」）取組例

①　英語と数学で実施し、生徒の興味・関心、習熟の程度、学習内容等を総合的に判断し、２クラスに分割。※３年数学は習熟の程度に応じて２クラスに分割。

・学年ごとに「ねらい」を明確にする。
・生徒の興味・関心や習熟の程度に応じた希望型少人数指導では、生徒自らがコースを選択できるようガイダンス資料や自己評価問題を準備し、生徒自ら課題を見つける大切さを気付かせるとともに、できる問題を増やし達成感を味わわせる。

②　一単元の指導の流れを工夫し、きめ細かな指導をするとともに、生徒のつまずきを分析し、丁寧に指導をする。

・分割は単元ごとに行い、最初は単純分割を行う。
・基礎的・基本的な知識・技能についての学習を終えた時点で、生徒の希望に配慮しながら、習熟の程度に応じて分割を行う。
・単元の学習を終えた時点で、振り返りや学習内容の復習等を行い、生徒の希望に合わせた希望型の習熟の程度に応じた少人数指導を行う。

単純分割　⇨　習熟の程度別分割①　⇨　習熟の程度別分割②

基礎的・基本的な事項の定着状況の確認

思考力・判断力・表現力等も踏まえた定着状況の確認

〈指導方法の工夫改善事例〉

学習習慣の確立に向けた取組

③ 学習習慣の確立を図る予習・復習等の学び方の指導

■　家庭と連携して、児童生徒の学習状況を把握するとともに、個に応じて学習計画を立てさせるなど、学習習慣の確立を図るとともに、調べ学習や自主的な読書などにより、進んで学ぼうとする学習意欲を高める。

事例１「自主学習ノート」の取組

・一人一人に自主学習ノートを持たせ、教科の予習・復習や興味のあることを自分から進んで学習できるよう<u>個別指導</u>を行い、家庭学習を習慣づける。

①学習内容の定着を図るため、間違い直し等をきちんとさせるとともに、学習意欲を高めるため個人ごとの目標や励ましのコメントを記入する。
②効果的な取組をしているノート例を児童生徒に伝え、学習方法を学ぶきっかけとしたり、学習意欲の向上につなげたりする。

事例２「家庭学習の手引き」の配付・活用

・家庭学習の基本的なポイントについて児童生徒・保護者に知らせる。また、家庭学習の手引きの内容について、学級通信や学級懇談会等で保護者と情報交換するなど、学校と家庭が連携し<u>家庭学習の習慣化</u>を図る。
・職員会議等において家庭学習の状況について、分析・検討し、学校のホームページに掲載するなど、家庭への啓発を進める。
・「家庭学習の手引き」については、児童生徒の実態に合い、また読んでもらえる内容となるよう改訂版を作成する。

1　家庭学習は、なぜ大切？
家庭学習は、なぜ必要なのでしょうか。家庭は、自分を一番よく知っている家族とともに自由に思いを言い、行動できる開放感のある環境です。そこでは、自分の考えを即座に聞いてもらえるうれしさや認めてもらえる喜びがあり、やる気を身につけることができます。また、家族の励ましで少しずつの継続が、学力向上につながります。
そこで、家庭学習の基本について提案します。

◎ 基本的な生活習慣を見直しましょう
～早寝・早起き・朝ご飯～
学力を向上させるためには、規則正しい生活リズムをつくることがまず必要です。元気は、食事からです。朝ご飯をしっかりとって元気に登校し、楽しくいきいきとした学校生活を送ってくれることを願っています。それとともに、睡眠時間も充分にとることも大切です。小学生の場合、8時間から9時間が必要です。

◎ 家庭の学習環境を整えましょう
～決まった場所で、一定時間、テレビを消して～
学習モードに入るには、いつもの落ち着ける空間が必要です。身体と心は、連動しています。まして子どもは集中するためには、音は禁物です。子どもが家庭学習をしている時は、なるべく音を出さずに静かにしてあげることが親としての正しい姿です。

◎ 学習習慣の定着をめざしましょう
～基本的な学習習慣と自学自習の習慣を～
学校で学習したことをもう一度家庭で復習してみることで、本当に「わかった！」と確認できるものです。特に、漢字・計算・音読は、繰り返しすることにより「わかった。」から「できた。」という自信に変わるものです。「継続は力なり」と言われるように、毎日の積み重ねが効果を生みます。
さらに、自分から進んで学習しようと思う気持ちが高まり、学ぶ喜びが身についてきます。

◎ 保護者も家庭学習に関わりましょう
－子どもの学習内容に関心を持ち、励まし、一緒に取り組む姿勢を～
子どもが家庭学習をしている時の家族の姿勢が、とても大事です。わからないと言ってきた時には一緒に調べて教えてあげたり、家族や親子で本を一緒に読んだりするなど家庭学習に親が関わることで、家族のふれあいやコミュニケーションが図れます。また、家族のふれあいの機会が増えることにより、信頼関係が強くなるとともに子どもはより自信とやる気が育ちます。その結果、学力が身についてきます。

5・6年生

自学自習の習慣を身につけよう

学習時間のめやす　60分

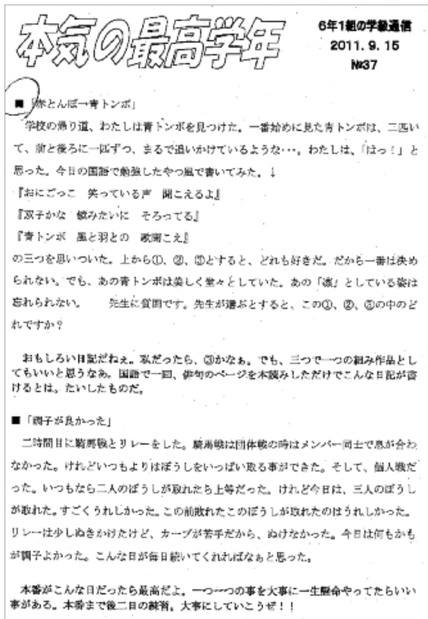
つなげよう　広げよう　自主学習を

生活の乱れは、学力低下にもつながります。今一度、生活習慣を見直して正しい生活リズムで、計画的に学習を進めることが大切です。
学習への興味関心・意欲を高めるためには、家族の言葉かけが重要なポイントになります。目標を決めて継続的に学習ができるように、温かく見守りながらはげましてあげてください。

≪　学習の特徴　≫
● 抽象的な内容や論理的な思考を伴う学習が増えます。
（筋道を立てて考える力や広い視野で物事を見る力が必要になります。）
● 自分なりに工夫して学習内容をまとめる学習が増えます。
● 友だちの考えと比較しながら、より良く自分の考えをまとめる学習が増えます。
（多様なものの見方や考え方が必要になります。）
● 家庭科の学習では、衣食住の基礎・基本を学びます。

≪　家庭での支援　≫
● 学習する場所の整理整頓をし、計画を立てて学習が進められるようにしましょう。
● 新聞やテレビのニュース番組を一緒に見て、社会の出来事に関心が持てるようにしましょう。
● 自由読書を広げ、いつでも読書ができるよう手元に本を置いておきましょう。
● 子どもの自尊感情を育てるために、ほめたり励ましたりすることを大切にしましょう。
● 家族の一員として、お手伝いや役割を決め、家庭科などで学習したことを実生活の中に生かしていくことが必要です。

〈小学校の家庭学習の手引きの一部〉



本気の最高学年

6年1組の学級通信
2011. 9. 15
№37

■「赤とんぼ→青トンボ」
学校の帰り道、わたしは青トンボを見つけた。一番始めに見た青トンボは、二匹いて、前と後ろに一匹ずつ、まるで追いかけているような…。わたしは、「はっ！」と思った。今日の国語で勉強したやつ風で書いてみた。↓
『おにごっこ　笑っている声　聞こえるよ』
『双子かな　鏡みたいに　そろってる』
『青トンボ　風と羽との　歌聞こえ』
の三つを思いついた。上から①、②、③とすると、どれも好きだ。だから一番は決められない。でも、あの青トンボは美しく堂々としていた。あの「凛」としている姿は忘れられない。　　先生に質問です。先生が選ぶとすると、この①、②、③の中のどれですか？

おもしろい日記だねぇ。私だったら、③かなぁ。でも、三つで一つの組み作品としてもいいと思うなぁ。国語で一回、俳句のページを本読みしただけでこんな日記が書けるとは。たいしたものだ。

■「調子が良かった」
二時間目に騎馬戦とリレーをした。騎馬戦は団体戦の時はメンバー同士で息が合わなかった。けれどいつもよりはぼうしをいっぱい取る事ができた。そして、個人戦だった。いつもなら二人のぼうしが取れたら上等だった。けれど今日は、三人のぼうしが取れた。すごくうれしかった。この前敗れたこのぼうしが取れたのはうれしかった。リレーは少しぬきかけたけど、カーブが苦手だから、ぬけなかった。今日は何もかもが調子よかった。こんな日が毎日続いてくれればなぁと思った。

本番がこんな日だったら最高だよ。一つ一つの事を大事に一生懸命やってたらいい事がある。本番まで後二日の練習。大事にしていこうぜ！！

〈小学校の自主学習ノートに綴る日記を学級通信にした例〉

事例３「山登り読書カード」（六甲山・富士山・エベレスト山）の利用

・児童に読書カードを選択させ、１ページを１メートルとしてカードに記入し、<u>家庭での読書を促進する</u>。（児童生徒の実態に応じて、時間、ページ数、内容などを指標とする）

④ 言語活動等を支える学習規律や学び方の指導

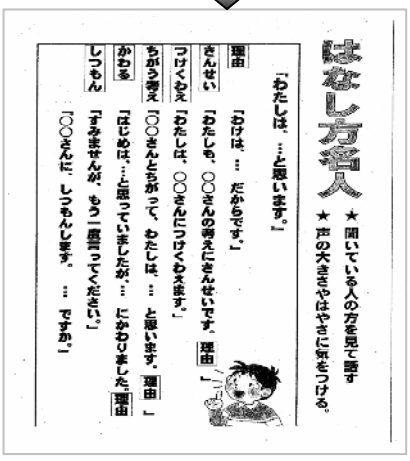
■　国語科で培った言語の能力を基本に、各教科等における言語活動の充実を図る基盤として、発表等の学習規律や学び方の指導方法等の共通理解を図る。

事例１　発達段階に応じた重点目標の設定

学年毎に「話すこと・聞くこと」の重点目標を決め、教員間のみならず児童とも共有する。

◇各学年における「話すこと・聞くこと」系統表例

	低学年	中学年	高学年
話す	・相手に応じて ・事柄を順序立てて ・丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて	・相手や目的に応じて ・理由や事例などを挙げながら筋道立てて ・丁寧な言葉を用いるなど適切な言葉遣いで	・目的や意図に応じて ・話の構成を工夫しながら ・場に応じた適切な言葉遣いで
	・姿勢や口形に注意して ・声の大きさや速さに注意して ・はっきりした発音で	・相手を見て ・言葉の抑揚や強弱に注意して ・間の取り方に注意して	・共通語と方言との違いを理解して ・必要に応じて共通語で
聞く	・大事なことを落とさずに ・興味をもって	・話の中心に気を付けて ・質問したり感想を述べたりしながら	・話し手の意図を捉えながら ・自分の意見と比べながら ・考えをまとめながら
話し合う	・互いの話を集中して聞き ・話題に沿って	・互いの考えの共通点や相違点を考えて ・司会や提案の役割を果たしながら ・進行に沿って	・互いの立場や意図をはっきりさせながら ・計画的に



○全教室前面に「話すこと・聞くことの重点目標」や「話し方」を掲示し、児童の目に触れるようにしておく。

○態度だけではなく、聞くこと、話すことの内容のポイントを指導する。

事例２　ペアやグループでの話し合いの指導

ペアやグループでの話し合い活動の方法を児童生徒に定着させるとともに、ペアやグループの活動に相互評価による推敲の場面を設定する。

○　自分の考えを整理してから話そう。
○　考えの理由や根拠を明らかにしてから話そう。
○　友だちの意見を聞くときは、メモをとりながら聞こう。
○　自分の考えと比べながら聞こう。
○　友だちの意見に対して質問したり、内容や話し方でよかった点や分かりにくかった点についてコメントしよう。
○　友だちの意見をもとに、自分の考えをまとめ直してみよう。

〈指導方法の工夫改善事例〉

指導方法の系統性を図る取組

⑤ 小中学校の課題を共有する小中合同の教科部会

■　学力・学習状況について小・中学校が連携して分析したり、小・中学校での授業を相互参観したりすることにより、児童生徒の実態を把握するとともに、系統性のある指導体制を確立する。

事例１　算数・数学科における取組

①中学１年生の入学時に実施した「計算力診断テスト」を、各中学校ブロックの算数・数学科部会において、過去数年間の正答率と比較して検証する。
- 中学校区ブロックごとに教科部会を開催し、テスト結果についての意見交換と指導方法の改善についての検討を行い、小中双方の指導に活かす。

②小学校・中学校での授業を相互参観し、小学校・中学校での指導の在り方や授業についての研修を実施する。
- 算数・数学科部会による小中合同授業研究会を実施し、研究協議では、特に異校種の教員の意見を求めることによって、協議内容をより充実させる。

〈小中合同授業研究会〉

事例２　外国語科・外国語活動における取組

①　市全体で取り組んでいる「中学校区連携会議」を活用し、連絡調整を図る。
②　関係各校が小中合同の外国語教科部会を開催し各教科担当者等が参加する。
③　関係各校の校内授業研究会や教科研修会等へ相互に参加する。

まず始めにお互いを理解することが重要

◇取組体制の工夫
- 小中合同の外国語教科部会参加者が、各校での校内研修の講師となり、指導についての考え方の共通化を図る。
- 小学校間連携として、外国語活動の合同授業を行う。

◇授業力向上への工夫
- 合同教科部会において、中学校の外国語の指導内容と小学校の外国語活動の内容をお互いに理解し、その系統性を検討、確認する。
- 中学校教員の専門性を活かしながら、小学校外国語活動の教材開発を行う。
- 合同教科部会に ALT も出席して、まず教員が外国語に親しみをもつよう、新しい教材を試作し、部会の中で模擬授業を行う。

◇児童理解への工夫
- 中学校教員が小学生の授業に関わることで、児童理解を深め中学校入学時の学級編制等に活用するとともに、中学校進学時の児童の不安感を軽減する。

⑥ 授業実践のポイントを継承する授業研究

■　多様な指導方法を身に付けた経験豊富な教員の授業実践や指導方法を若手教員に継承するなど、校内研修の充実を図る。

事例　ワークショップ型研修の取組

①　学習規律の確立や言語活動の充実に向け、共通の目標を教員がもつとともに、校内で発達段階に応じた系統的な指導を確立する。

②　ワークショップ型研修で積極的に若手教員も意見交流し、指導力の向上を目指す。

《ワークショップ型研修の例》

1　学年団で、学習指導要領の読み込みや評価規準の検討、模擬授業等の事前研究に取り組む。

2　指導案に全体研究協議で中心的に話し合ってもらいたいこと（授業を見る観点）を明らかにしておく。

3　研究協議グループ（学年団のメンバーとは別）で、授業者から出された観点のどこを中心に参観するか、役割分担をしておく。個別に１時間の学びの様子を記録する対象児童も決める。

4　全体研究協議をする。
(1) 研究協議の観点の確認
(2) 課題を付箋に記入し、それらをグルーピングして短冊に記入
(3) 短冊を元に改善策を付箋に記入し掲示
(4) 意見交流
(5) 授業者が授業改善プランを発表
(6) 講評

〈ワークショップ研修の様子の写真〉

○授業を見る観点（例）

授業計画の観点	授業実施の観点
◇ 本時のめあての明確化 ◇ 評価規準の明示 ※評価計画との関連 ◇ 評価の場面の設定と評価方法の具体性 ◇ 教材・教具の準備 ◇ 学習形態の選択　等	◇ 教師の立ち位置 ◇ 児童・生徒の発言の受け止め方 ◇ 発問・指示・説明・助言・範読等の仕方 ◇ 板書 ◇ 教材・教具・資料の使用法 ◇ ノート指導の方法 ◇ 学習規律等の共通理解事項の確認　等

○研修の工夫のポイント

①各年齢層が、研究授業・研究協議の中で、自分の授業を客観視する。

②児童生徒に「学びの姿勢アンケート」をとり、実態を把握するとともに、発達段階に応じて児童の意識を高める指導方法を検討する。

③教員が児童生徒の課題を共有し、その改善策を学校として組織的・系統的に考える。

全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業や指導方法の工夫改善事例集

発　行　　兵庫県教育委員会　平成23年12月
連絡先　　〒650-8567　神戸市中央区下山手通５丁目１０番１号　℡(078)341-7711（代表）